

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800102		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターゆらの里 (こもれび)		
所在地	京都府綾部市豊里町福垣243番地		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果市町村受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2691800102-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な、雰囲気の中で、役割分担や余暇活動により、落ち着いた暮らしが、送れるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームの職員は利用者との関係構築を築きながら職員間は連携を図り、温かい環境の中で利用者や職員が共に笑顔が多く見られるような暮らしを支援しています。利用者は編み物や針仕事、掃除等の家事の他、観葉植物や庭の畑の世話等を日課にして積極的に携わり、できる事や得意なことを継続し役割を持って暮らせるよう支援しています。また季節に合わせた絵画を飾るために退居した利用者の家族が定期的に訪れる等の関わりも継続しており、家族とのコミュニケーションや信頼関係作りも大切にしています。毎年開催しているニチイ祭りは家族が互いにアドバイスや相談ができる機会となり家族間の横の繋がりに発展したり、地域の方にはホームへの理解を深めてもらう機会になっておりホームの広報誌を地域に回覧してもらう等地域に溶け込んだ交流が深まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に研修の場を設け、地域の方との交流も図り実践につなげています。	利用者が住み慣れた所で笑顔で一緒に暮らせる支援に向けた理念を開設時の職員が作成し、リビングに掲げ朝礼時に職員間で唱和し意識付けをしています。研修時や業務ミーティングで理念に触れる機会を作り、笑顔を心がけ利用者を尊重した言葉遣いや尊厳のある対応ができていかなどを確認し、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には出来る限り参加しています。	地域の文化祭に利用者で作った作品を出展したり、ホーム駐車場で祭りの神輿に舞いを披露してもらっています。ホームの運動会は家族の他、近隣の理髪店にも声をかけ参加を得たり、ニチイ祭りは近隣店舗に案内文を貼り、参加した地域の方と共に楽しんでいます。また傾聴や歌の他、退居した家族がボランティアとしてホームを訪れています。毎月ホームの広報誌を地域に回覧する等、自治会の一員として交流が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の包括支援センターの依頼で認知症の勉強会をする予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討事項で、地域での行事などの案内を頂くと参加して、地域との交流に取り組んでいます。	会議は家族代表や自治会会長、民生委員、訪問看護師等の参加を得て開催し、ホームの状況や活動、事故、職員の異動等を報告し意見交換しています。参加者からアドバイスを得たり、意見を受けて家族会について検討を始める等、運営に活かせるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご出席して頂き活動や入居者状況など報告しています。	市職員には運営推進会議や地域包括支援センター職員との会議にも参加を得ており情報交換をしています。また研修案内が届いた際は参加したり、手続き等で役所に出向いた際は制度の動向を教えてもらう等協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止について職員研修を行う。	職員は法人の身体拘束に関する研修に順番に参加し、ホームでは伝達研修を行い周知しています。言葉による行動の制止等が見られた場合はその都度リーダーが注意したり、朝礼やユニット会議等で伝えることもあります。夜間以外は施錠は行わず利用者は玄関先や広い庭へは自由に出入りができており、安全に付き添うために家族の了解を得てドアに鈴をつけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について職員研修を行う。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1月の研修課題として取り入れています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議録の掲示や意見箱の設置しています。家族様来設時には、意見を伺ったりしています。	家族が意見を出しやすいよう信頼関係づくりに努め面会時に利用者の様子を伝える中や運営推進会議等で意見を聞いたり、法人が実施する満足度調査などでも意見を収集しています。外出についての意見を受けて地域行事に参加する機会を増やすなどサービスの向上に繋げています。また毎月介護相談員を受け入れ利用者の声を聴いてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご利用者様にとって何がよいのか常に関心を持ち、職員の話聞いています。	職員は職員会議やユニット会議、日々の申し送り、日常業務の中などで活発に意見や提案を出しています。会議は多くの職員が参加できるよう日時を決め、全員に発言を求めています。また個々の職員は行事や広報、研修などの委員を担っており、役割を通して意見を出しています。災害時の防災頭巾作りや裁縫箱の管理を見直す等、意見を受け改善に繋げています。また管理者が定期や随時に面談の機会を設け意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、随時挑戦している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修年間計画を立て、毎月研修を行っています。また近隣の研修予定の回覧もまわし、積極的な参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月居住系の会議を行い情報の共有をしています。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の意向を取り入れ傾聴し共感することで心の交流を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて、グループホームをご利用頂く事の不安と一緒に感じ、ここでの生活をこまめに報告して信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、グループホームの説明と共に他サービスの情報もお伝えして必要であれば紹介もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあえる関係を取れているご利用者様もありますが、こちらから促しの必要な方もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを家族に伝え、家族様とご本人様のコミュニケーションがとれる様に支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との連携は常に心がけています。この地域との交流は積極的に参加を心がけています。	友人や知人、親戚等の来訪があり居室に椅子やお茶を用意しゆっくりできるよう配慮しています。送迎サービスを利用して行きつけの美容室や在宅時に通っていた集いに通えるよう支援したり、職員が付き添い葬儀に参列したこともあります。また手紙を出す方の住所の確認や本人の意向を家族に伝え墓参りが実現した方もおり、家族と相談しながら馴染みの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ居間で過ごして頂き、ご利用者様同士が共に、作業や食事の後始末などして頂き一緒に達成感を味わってもらっています。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その様な状況には、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様と協力の上、出来る限り思いに沿う様に連携をとっております。	入居時に今まで大切にしてきた事や暮らし方の希望、趣味などを聞き、生活や習慣などの情報は家族に記入してもらい、以前のケアマネジャーからも情報を収集し意向の把握に努めています。日々の関わりの中で本人の言葉や職員が気づいた事、意向に添って支援した内容などは個人記録やアセスメントに追記して共有し意向の把握に向け職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	傾聴や共感することで、その方を深く知り情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活を大事に今の体力が維持できるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を行う中でご本人の意向にそった暮らしができるようにモニタリングしています。	介護計画はサービス担当者会議を開き、本人や面会時等に聞いた家族の意向、集約した職員の意見や必要に応じて医師や看護師の意見を反映し作成しています。計画を基に日常生活支援シートを作成し、担当者が計画の実施状況を確認しています。入居当初は3ヵ月後にモニタリングを実施して見直し、その後は6ヵ月毎にモニタリングを行い安定している場合は1年毎に、状況が変化した場合には随時計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見守りの中で常に個別性を考え、その人が、その人らしく過ごせるよう職員間で継続したケアをして介護計画に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが出てきたら検討して、取り組んでいます。		

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設1年がたとうとしている中で、地域の方の活動や行事など知る事が出来て、今後はもっと地域に積極的に参加できるように支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の状態にあわせ、往診や通院介助の支援をしています。	これまでのかかりつけ医を継続する事ができ、継続している方は家族が付き添って受診し利用者の状況や受診結果はその都度家族と共有しています。協力医は月に1度往診があり、協力医療機関の他科を受診する際は主に職員が同行し家族が付き添う事もあります。希望や治療の必要のある方は訪問歯科や口腔ケアを受けています。また体調の変化に応じて24時間相談ができる訪問看護師の指示を得て対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25年12月より訪問看護を利用する事になり、個々のご利用者様の状況把握してもらい、24時間体制で対応して頂き適切なアドバイスをして貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員様と医師や家族様との連携でスムーズな関係作りを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に医療連携の説明と共に重度化されたり、終末期のことも今後考えていく必要がありますねと声かけはしてあります。	看取り支援については重要事項説明書の中で常時医療が必要でない場合は家族の協力の基支援できる事を伝えていきます。看取りに近い支援の経験があり、時期が来たら医師の意見を聞きながら家族と相談し意向に添って支援したいと考えています。職員は支援に向けて協力医の看護師による嚥下障害等について学ぶ機会を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿った行動をするように、常に連絡体制はとっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会や民生委員様との連携をとり、地域の訓練にも参加しております。	年に2回、自治会長や運営推進会議、近隣の店舗に案内と協力を依頼し、初期消火や避難誘導、職員の連絡網の確認や応援要請等の訓練を行っています。夜間想定訓練では消防署の立ち合いを得て実施しアドバイスをしています。また職員が地域の訓練に参加したり、消防団へ協力を依頼しています。防災頭巾等の備品や食品や水等を準備し災害に備えています。	

ニチケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しく接しても、言葉かけはご入居者をうやまい尊厳をまもるように心がけています。	接遇マナー研修を受講し不参加の職員に伝達し周知しています。利用者へは苗字での声掛けを基本に方言を交えて丁寧な言葉で対応するように伝え、本人の希望で他の呼び方をする場合は家族の了解を得ています。排泄介助時の声掛けは言葉を変えて誘う等の配慮を行い、業務ミーティング等で不適切な対応や馴れ合いになっていないかを確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の声かけの中で興味のあることやしたい事を感じとり、実現できるようお手伝いしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームはゆっくり穏やかな時間の流れです。お一人、お一人様の希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択については行事の時などはおしゃれして頂いていますが、平日は清潔で暖かでお気に入りの洋服を一緒に選んで頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節を感じる食事の提供や、一緒に後片付けをゆっくり話をして、家族の一員のような雰囲気味わって頂いています。	法人から届く献立を参考に暦の上での行事食や畑の収穫物、利用者の好み等を取り入れ献立をアレンジしています。利用者は発注して届いた食材を職員と共に仕分けをしたり、下拵えや洗い物等のできる事に携わっています。おはぎやお汁粉等のおやつ作りや寿司の出前を取ることもあり、食事が楽しめるよう支援しています。また嫌いな物は代替え食を準備しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を介護記録にて把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による口腔指導を受けています。		

ニチケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人様にあった声かけをして自立した排泄を支援しています。	個別の排泄記録を基にその人に合わせて声掛けやトイレに案内をしています。利用者の尿量に適した排泄用品の選択や夜間は安眠も考慮し支援方法を検討したり、本人の希望で日中もポータブルトイレを使用する方もおり、本人の意向や習慣も大切に支援しています。入居時におむつを使用していた方が紙パンツに改善した方もおり、個々に合わせて自立に向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料や乳製品を提供し、適度な運動の促し、水分補給や食品の提供を工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あらかじめ曜日は決めています、ご本人の意向に合わせて入浴して頂いております。	入浴は午前中から夕方間に希望を聞きながら週に2回以上入れるよう支援し入浴好きな方は多めに入ったり、夏場は汗をかいたらシャワーをしてもらっています。入浴好きの方が多く一人ずつ湯を入れ替え入浴剤の色や香りを楽しんだり、気の合う職員と会話をしながらゆっくり入ってもらっています。脱衣室などを温め温度差の無いように配慮をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室にて、ご入居者様の入眠時間に合わせた見守りを提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の服薬処方を職員全員が確認し間違いの無いようにダブルチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居前までされていた趣味活動や畑仕事が続けられるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散髪や美容院、お買い物などご本人様の意向に合わせて外出を随時支援しています。	天気の良い時はホーム周辺を散歩したり、季節の梅やあじさいなどの花を見に行っています。文化祭などの地域行事や毎月地域の理美容院に出かけています。また広い庭に出て花や野菜の世話をしたり、テラスで気分転換を図ったり、駐車場にテーブルを出し食事をすることもあり、日常的に外気に触れる機会を作っています。	

ニチイケアセンターゆらの里(こもれび)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお小遣い金は、施設でお預かりさせて頂き、ご利用時にご本人様が自由に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたい、手紙を書きたい、と言われた場合家族様と連携とって支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やローカ、玄関には、入居者様と職員で作成した季節の作品を飾り季節感を味わって頂いています。	共用空間は利用者のちぎり絵や書道の作品、行事の写真等を飾ったり、正月の飾り付けなども行い季節感に配慮した空間作りを行っています。日付や曜日、トイレの場所や居室の名前等は車いすの方にも見やすい高さに表示し、混乱のないよう配慮しています。また温湿度計や空気清浄器を置き、毎日窓を開け換気し利用者と共にモップ掛け等の掃除を行い、快適で過ごしやすい空間を保てるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座りなれた馴染みの席で気の合う方と、くつろいで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調設備を整え、本人様の生活スタイルに合わせ、落ち着いて過して頂いています。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうよう家族に伝え、家具やテレビ等は職員も相談に乗りながら過ごしやすいよう配置し、身体状況が変化した際は家具の配置を変えたり、緩衝材を取り付けて安全に配慮しています。また趣味の道具や収集していたコイン等、大切な物を持参し、その人らしい居室となっています。また時間が気になる方は見やすい時計を置き日時が分かるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープンキッチンで料理や、食器洗い、食器拭きも手伝って頂いています。		